【発表題目】

外国語としての日本語の習得研究　―トルコ人日本語学習者の場合―

【概要】

本研究の目的は、日本語とトルコ語における授受表現を明らかにした上で、トルコ語を母語とする日本語学習者の授受表現の習得状況を明らかにすることである。

Odlin(1989)では、母語と目標言語間の距離が近い場合、正の転移が生じ、逆にその距離が遠い場合、負の転移が生じるとされる。日本語とトルコ語は同じウラル・アルタイ言語族に属するとされており（柴田、1993）、例えば、「ここに 5 冊の 本 が ある。」という日本語の文をトルコ語に翻訳した場合、「Burada beş kitap var.」となり、各品詞の順序は日本語の場合と全く同じになる（burada は「ここに」を意味する副詞、beş は「5」を意味する数詞、kitap は「本」を意味する名詞、var は「～が存在する」を意味する動詞）。こうした共通点があることから、英語などに比べて、日本語はトルコ人学習者にとって習得が容易な言語だと言えよう。

しかしながら、母語を問わずどの学習者にとっても習得困難な項目として挙げられる（堀口 1984）授受表現は、トルコ人日本語学習者にとっても習得が困難な項目となっている。

本発表では、まず、日本語とトルコ語における授受表現の比較を行い、日本語の「てあげる」・「てくれる」の文構造と類似している構造がトルコ語に存在するのに対し、「てもらう」に対応する表現が存在しないという相違点が見られることを論じる。

両言語の表現に関する比較結果から、トルコ人学習者が、母語の知識を利用して授受表現を習得することは困難と推測され、特に、「てもらう」に相当する言語表現がトルコ語には存在しないことから、「てもらう」の習得は最も困難であるという予測が立つ。

そこで次に、トルコ人学習者 90 名に対して、口頭による授受表現の産出タスクを実験として行い、その産出頻度の比較を行った結果を報告する。「てもらう」の産出頻度は「てあげる」および「てくれる」より低く、予測通り習得が進んでいないことが分かった。本発表では、なぜ「てもらう」が最も習得されにくいのかというその要因についても考察する。

【参考文献】

Akkus, D. (2008).「日本語とトルコ語における「物・行為の授受を表す表現」の比較」『ことばの科学』21, 61-80.

堀口純子（1984).「授受表現に関わる誤りの分析」『日本語教 育』52, 91-103.

Odlin, T. (1989). *Language Transfer: Cross-linguistic Influence in Language Learning*. Cambridge: Cambridge University Press.

柴田武（1993).『世界のことば小事典』大修館書店.